

2023年10月31日(火)

老球の細道758号

10月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「朝起きて 痛みなく見る アサガオを」。毎朝見る庭のアサガオは一日のスタートに勢いを与えてくれる。身体に痛みがないことで元気澆刺。そんなささやかな喜びに浸っている時に、遠い中東パレスチナの地では、また戦いが始まり、私なんか問題にならない痛みと苦しみを味わっている人たちがいる。一日も早くパレスチナ、ウクライナに停戦を。

1・読書から

◆「**「勇気というのは孤立するために必要な資質です」**〈『新しい戦前』内田樹・白井聡：朝日新書〉：大多数が「右」と言う時に、私の考えが「左」の時、1人で「左」と主張することができるか自問自答する。流行を泳いで、溺れない、目指せ、ソロ・サピエンス。

◆「**「わしは死神と競争で仕事をする（鈴木大拙）」**〈『正法眼蔵随聞記講話』講談社：鎌田茂雄〉：人は生まれながらにして死刑囚であると誰かが言っていた。平均寿命まで生きられる保証はどこにもない。まだまだやり切らないことがたくさんある。悠々自適など夢また夢。

2・新聞等から

◆「**「書物を買って求めるのは結構なことだろう。ただしついでにそれを読む時間も、買って求めることができればである（ショーペンハウエル）」**〈朝日：天声人語〉：読書の秋であるが、なぜか現職時代よりも読む時間が取れない。集中力も続かない。そこで朝、午後、夕方と細切れ時間を設定して数冊を同時進行で読んでいる。夜はお酒と映画の時間。1日が忙しい。

◆「**「たとえ何年も成果がでなくても、諦めてはいけない。自分を信じろ。新たな発見に必要なのは長く味気のない期間に耐える楽天性と自信なのです」**〈朝日：天声人語〉：新型コロナワクチンでノーベル生理学・医学賞を受賞したカタリン・カリコ氏の不遇の時代を励ましたストレス学説の大家ハンス・セリエの言葉である。バスケット指導にも役立つ言葉である。

◆「**「さしあたって役にもたためことの集積が人生をつくるが、すぐに役に立つことは生活しづらい。生活があって人生のない一生ほどむづかしいものはない（遠藤周作）」**〈朝日：私の視点：人生に染みる芸術支援を〉：お金がもうかる、うまくいく、そういう方向ばかり追求するのではなく、スポーツなど人生の「無用の用」に狂や馬鹿がつくようになりたい。

◆「**「エンジョイ・ベースボールは“楽しむ野球”ではありません。“野球を楽しもう”です。注釈をつけると、“よりレベルの高い野球を楽しもう”。より高いステージ、より高いレベルの相手と対戦することを目指そうということです」**〈朝日：高校野球メソッド：慶応高校野球監督〉：最近のスポーツのトレンドは「楽しむ」。私の究極の楽しみは「努力の後の勝利」。地産地消の選手で番狂わせを起こし、歓喜の涙を流すバスケットボール人生を送ること。

◆「**「定年後が退屈になる原因の一つは、失敗する機会がないことだ」**〈朝日・折々のことば：外山滋比古〉：ヒトは老いてヒトになる。私はフミヒトである。生き甲斐となる挑戦「老甲斐」は今も失敗ばかり。退屈する暇はない。窮屈、偏屈、卑屈の「老害」にならないように。